

## 喫煙あれこれ

現代社会は世界的に禁煙の傾向にあるが、それでも愛煙家にとってタバコはなかなか止められないものらしい。健康に悪いばかりでなく、火事の最大原因であり、空気も汚れ、周囲がハタ迷惑を蒙り、悪いことばかりで愛煙家にとってはいたって肩身が狭い。

かつてヤルタ会談のおり、チャーチル首相が葉巻を燻らし、スターリンがパイプをくわえ、一幅の絵になった洒落た？光景は、今や世界の首脳会談や、国際会議場ではほとんど見かけられなくなった。

世界的に見てみると、アメリカのようにストイックに禁煙に取り組んでいる国、16歳以上を大人と見なした憲法のせいで、校内で禁煙も徹底出来ないところぼしているドイツのギムナジウム、男も女も成人のほとんどが愛煙家のロシア人、戦場で銃を傍らに置いてまでしてもタバコを手離せないポル・ポト軍兵士、等いろんなケースがある。

愛煙家の多い団体さんとアメリカへ行く場合、いつも喫煙場所と喫煙タイムを考えなければならぬことは、添乗員としては少々気が重い。空港、駅構内、屋内施設、公共施設等では、ほぼ100%禁煙である。喫煙の機会を与えるために、吸わない人を待たせてまでして喫煙場所を探したり、フリーウェイでバスを停車させたこともしばしばである。教育関係の視察では、喫煙の許可をもらいながら、2度目のお願いではじろっとにらまれ、3度目になると健康への悪影響について訓話された後、一人前になろうと懸命に努力しているハンディキャップのこどもたちを見習え、ときつ〜く諫められたこともある。

愛煙家にとっては、吸う人の自由だ、やれ権利だと主張したいだろうが、そのために周囲で迷惑を蒙っている人が確実にいるということは、心しておかなければなるまい。

(近藤)